

すわ光昭 県政だより

発行 者
県民クラブ・公明 大町支部
支部長：諏訪光昭

〒398-0002 大町市大町(下仲町)4067
TEL：0261-23-7460 FAX：0261-23-7461



総務企画警察委員会の質疑

ごあいさつ

日頃から長野県議会の活動に対しまして、温かなご支援、ご協力を賜り厚くお礼申しあげます。6月議会は、4月の統一地方選挙後初めての定例会でした。

4月23日から開催された「第36回全国都市緑化信州フェア」(信州花フェスタ2019)は盛況のうちに終了しました。メイン会場の松本平広域公園はじめ、サブ会場の国営アルプスあづみの公園大町松川地区など、信州らしい会場づくり、運営、多くのボランティアの皆様の準備と協力によって、花や緑が生み出す、心の安らぎ、潤いなどを発信、大勢の皆様から共感をいただきました。

6月には「G20持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会議」が軽井沢町で開催され、地球の環境問題、持続可能な社会づくりに向けても長野県が大きな役割を果たしました。

7月には第25回参議院議員選挙が行われ、3年ごとの改選議席に定数増加分を加えた124人(選挙区74人・比例代表50人)が選出されました。開票の結果は、非改選を合わせた参議院全体では与党が過半数を維持しました。自公両党は数に驕ることなく、丁寧な国会運営に努め、国内外に山積する政治課題の解決に向け力強く推進してほしいと思います。1人区の長野県選挙区は与党自民党が議席を失いました。

県政では、長野県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン2.0」が、今年度2年目に入りました。計画の目指す姿は、「確かな暮らしが営まれる美しい信州～学びと自治の力で拓く新時代～」です。明日への希望を持って日々の生活を送ることができ、豊かな自然、農山村風景、郷土への誇りと絆を大切にす心、地域に根付く学びの風土と自主自立の県民性を未来につなげるための各種施策を展開しています。

この基本目標達成と、政策推進のためにも、長野県を元気にするためにも、地域経済の活性化、雇用の場の確保と充実は極めて重要です。県政運営の基本「しあわせ信州創造プラン2.0」に基づき、これまで経験のない人口減少社会の到来等、直面する課題の解決を図りながら、これまで以上に、全力で邁進してまいりますので、この先も皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

長野県議会議員 諏訪 光昭

県議会令和元年度6月定例会(会期：6月21日～7月5日)の報告

令和元年6月定例会が開催され、知事から令和元年度一般会計補正予算、長野県主要農作物及び伝統野菜等の種子に関する条例案(以下「種子条例案」)、長野県立武道館条例案などの審議が提出されました。

本会議での一般質問や委員会では、提出議案の他、交通安全対策、医師確保対策、ひきこもり・不登校支援等、様々な課題について議論しました。

審議の結果、豚コレラの発生により被害を受けた養豚農家等

への支援や障がい者施設の安全性を高めるための大規模修繕等への支援に要する経費などを盛り込んだ総額3億3,743万円余の一般会計補正予算など、知事提出議案31件を原案のとおり可決、同意または承認しました。

なお、議員提出議案は5件の意見書を可決し、国に提出し実現を求めました。

6月例例会の主な議論の概要をお知らせいたします。

●医師確保対策について

医師の偏在解消に向けた今後の取り組みなどについて議論しました。

■議員の質問・質疑

本県は、国が2月に公表した地域の医師数の状況を把握する医師偏在指数で「医師少数県」に分類され、さらに県内でも都市部と中山間地域での偏在が浮き彫りになった。今年度作成の医師確保計画ではどのように医師の偏在を解消するか伺う。

●知事・部長答弁

国のガイドラインでは医師偏在の解消については、原則として、医師少数地域等を定め、重点的に支援することとなっている。中山間地域が多い本県では、医師少数地域はもとより、それ以外の地域にも支援が必要な地域がある。地域の現

状を丁寧に分析し、医師の確保・養成及び定着に向けた取り組みを進めていく。

■議員の質問・質疑

今後、若手医師が中山間地域の病院で働きたいと感じ、活躍していただくための支援をどのように考えているのか伺う。

●知事・部長答弁

中山間地域での勤務は、指導医の指導を十分に受けられないことや医療の進歩に遅れてしまうのではないかとといった不安が指摘されている一方、超高齢社会が進展する中の地域医療の最前線で、医師の基本を学ぶ貴重な場であると考えている。

若手医師が自らの将来のキャリアパスが描ける研修プログラムの提供や地域の中核病院の医師による継続的な指導体制、遠隔医療を用いた診療のサポート支援等の構築を検討していく。

●ひきこもり・不登校支援について

ひきこもりの実態調査の結果を踏まえた取り組みや、不登校の子供たちへの支援について議論しました。

■議員の質問・質疑

本年6月にひきこもりの実態調査の結果が公表され、県内のひきこもり状態にある方々が2,290人いることが判明した。

若者を対象にした相談窓口はあるが、40代、50代と長期にわたりひきこもり状態にある方や家族に対する相談・支援体制をどのようにしていくのか伺う。

●知事・部長答弁

県では、調査結果を発表した際に、当事者やご家族に向けて「悩みを抱え込まずに相談機関に相談して欲しい」と呼びかけを行った。

相談先としては、市町村窓口を基本とするが、相談しづらい方は県ひきこもり支援センターなどが窓口となり、具体的な支援につなげる。

これらの窓口では、長期にわたってひきこもり状態にある40代、50代の方に対しても、相談される方々の想いや悩みを丁寧に受け止め、個々の事情に応じて自立に

向けた就労支援や生活保護制度などのセーフティネットにつないでいる。

■議員の質問・質疑

ひきこもりや若者の自殺の根底に少なからず関係しているのが、不登校の子供への対応ではないかと考える。

県では、誰もが居場所と出番がある長野県を目指しているが、学校にも行くことができずに苦しい、学校に行つて苦しいというS O Sを発している子供たちにどう対応し、子供の学ぶ権利の保障をどのようにすすめていくのか伺う。

●知事・部長答弁

学校を色々な子供たちの希望や能力に合わせたものにしていく一方で、学校復帰を前提とする考え方や不登校を問題行動と捉える認識を転換していくことも重要であり、近年県内でも多様な学びの場が設置されてきている。また、この問題は学校だけでは対応しきれないことから、様々な関係者と一緒に課題や方向性について話し合う場を設けたい。「不登校未然防止及び不登校児童生徒への支援のための行動指針」を取りまとめたが、子供の学ぶ権利の保障の観点から、改めて幅広い議論を行い、県全体の共通認識としての方針、指針を定めていきたい。

令和元年度6月定例会「総務企画警察委員会」の議論の概要

県政は、財政・教育・福祉など色々な分野にわたっているので、議員はより詳しく調査及び審査をするために6つの常任委員会に分かれて活動します。私は、今年度「総務企画警察委員会」に属しています。「総務企画警察委員会」は、県行政の総合的な企画調整、地域振興、県財政の状況、犯罪・交通事故・少年非行の防止などについて調査や議案等の審査をします。

『子供の交通事故防止対策について』

滋賀県での園児を巻き込んだ交通事故をはじめ、子供の尊い命が失われる事態が全国的に注目されている。子供の交通事故防止対策等については、交通事故防止対策として、全保育所等を訪問し、散歩ルートの確認と危険箇所の抽出を行い、ルート見直し等の助言、園児などへの交通安全教育の実施、散歩ルート周辺での警戒、交通取り締まりを行っている。

『民間企業の基金を活用した先端技術実証事業について』

補正予算案に計上された民間企業の基金を活用した先端技術実証事業については、AIによる最適な配車及び運行ルートを自動で選定するデマンドシステムを活用し、2年間かけて貨客混載による実証運行を実施し、県内全域に広がる仕組みを検討していく方針が示されました。

総務企画警察委員会の県内現地調査は7月29日、30日の両日実施しました。

1回目の今回は東北信地区で、北信地域振興局をはじめ、上田地域振興局、中野警察署、青木村、長野市役所、元気づくり支援金の活用事業、地域振興推進事業などを活用している団体、機関等も訪問して、管内の概要、事業の状況等について説明を受け、取り組み状況、成果、課題などについて意見交換を行いました。



各会派代表者会議



6月定例会を前に知事との懇談会

6月定例会に先立って6月5日、各会派代表者と清沢英男議長との打ち合わせ会議を開催。引き続き、正副議長を含めた各会派代表者と阿部守一知事との懇談会を開催しました。

清沢議長とは新任議員研修会、海外調査等について、阿部知事とは「就業促進・働き方改革」の取り組みなどで意見交換しました。



総務企画警察委員会の県内現地調査

すわ光昭の公式ホームページもご覧下さい。

すわ光昭

検索

